

平成22年度
(第4四半期)

広貫堂グループ IR情報

株式会社 広貫堂

○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面) 売上面においてはグループ販売会社向け売上が前年同期比5.9%増加したことにより、106億9000万円と前年同期比3.7%の増加となりました。しかしながら、利益面では、2010年4月に竣工した呉羽工場の減価償却負担が重く、経常利益は、前年同期比2億1500万円減少の2億1300万円の赤字となりました。

(事業運営面) グループ会社を通じドラッグ流通でのドリンク売上が増収に寄与しました。又、新設呉羽工場1ラインにおける生産も固定費増になったものの本格稼働となりました。これらを踏まえ来期に向けた経営計画・方針の策定を行いました。

○ 課題への取組み

製造コスト増を賄うべく重要課題として、販売4部門(医薬品事業部・グローバル事業部・OTC事業部・ブランド事業部)への組織人材改編を行い、徹底した3現主義(現場、現物、現実)の元での損益分岐のカバーを目指す体制に加え、購買・物流及び各部門で取組むコスト削減の強化を経営方針に掲げ実施して参ります。又、液剤ラインの強化と連動した製品開発を推進し、ものづくりプラス価値づくりへのチャレンジ体制の強化を図っていきます。

○ トピックス、適時情報

1. 富山オリジナルブランド医薬品第2弾「エッセン(越撰)」の新発売に先駆けて、平成23年3月31日にプレス発表を行いました。
2. このたびの東日本大震災に際し、内閣府災害対策本部の要請により医薬品セット約7500個を被災地に提供しました。震災直後の医薬品不足に迅速に対応しました。

○ 業績の概況 (広貫堂・単体) (第4四半期、平成22年4月～23年3月) (千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	9,689,964	10,369,448	10,308,895	10,690,875
経常利益	375,372	337,499	2,341	-213,030

広貫堂グループ

○ 連結経営成績に関する定性的情報

売上面においては前年比104.7%、今期目標比100.1%で推移致しましたが、損益につきましては上記・広貫堂財務面での概況のとおり、当初の年度経営計画数値目標より減価償却等本体固定費の増大、及び販売市場における粗利額の縮小が製造原価を押し上げる形となり、今期においては営業損失2億131万円、経常損失1億8,270万円となりました。更に期中における特別損失及び繰延税金資産取崩しを加えた当期純損失は5億842万円と計画・前期比大幅な減益となりました。

来期、当社グループは中期5ヵ年計画の4年目を向え、5つの付加価値創生を図るべく損益分岐を意識した販売の質の充足と本体販売4部門の黒字化を早期に確立し、収益確保と継続的な成長を目指します。

○ 業績の概況 (広貫堂グループ・連結) (第4四半期、平成22年4月～23年3月) (千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	12,414,429	13,169,947	12,833,129	13,443,477
経常利益	656,918	718,222	235,994	-182,703

平成22年度
(第4四半期)

広貫堂グループ IR情報

グループ各社

薬都広貫堂 株式会社

○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面)

葛根湯内服液を含む重点品目は順調に推移し、新製品(12種)も導入しましたが、配置インボックス製品が低迷し、残念ながら売上高は3,753,116千円(前年比99.2%、目標比97.0%)、経常利益は60,920千円(前年比43.4%、目標比102.8%)となりました。

(事業運営面)

重点品目および新発売製品のエリア別販売戦略を基本とする営業展開の更なる徹底を目指すとともに、消費者ニーズにマッチした製品開発及び懸場保全策を推進していきます。

○ トピックス、適時情報

平成22年度に新発売した製品は下記のとおり。

- ・ 第2類医薬品 指定第2類医薬品 : 6品目
- ・ 第3類医薬品 : 1品目
- ・ 指定医薬部外品 健康食品 化粧品 : 5品目

○ 業績の概況 (第4四半期、平成22年4月～23年3月)

(千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	4,788,776	4,016,863	3,781,812	3,753,116
経常利益	5,008	36,270	140,311	60,920

日本薬剤 株式会社

○ 事業の概況 (事業運営、業績等の概況)

(財務面)

売上高は、平成21年度に発売したアルミ缶飲料、パウチ飲料、医薬部外品ドリンクおよび平成22年度新発売した、かぜ薬、100mLドリンクなどが寄与し、3,974,134千円となりました。また経常利益は82,347千円となりました。

(事業運営面)

メディカルサポート事業部およびヘルスケア事業部では市場ニーズに応えた製品の開発を進めております。年間を通じて順次製品を上市しています。

○ トピックス、適時情報

新発売(平成23年4月～24年3月)

かぜ薬 1アイテム、点眼薬 2アイテム、100mLドリンク 4アイテム、アルミ缶飲料 1アイテム

○ 業績の概況 (第4四半期、平成22年4月～23年3月)

(千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	2,647,227	2,879,049	3,400,150	3,974,134
経常利益	90,675	46,331	98,711	82,347

平成22年度
(第4四半期)

広貫堂グループ IR情報

グループ各社

廣貫堂産業 株式会社

○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面) 売上高13,585万円(前期比3,290万円の増収)となりました。人員の増員計画の取り止めや経費のムダを省いたことにより、経常利益は465万円(前期比2,295万円の増益)、当期純利益は515万円(前期比2,350万円の増益)となりました。

(事業運営面) 「懸場物語プロ」を4月、9月、「懸場物語ジュニア」を11月に納品を行い、問題なく運用され顧客満足を得ています。平成23年4月初旬には「懸場物語ジュニア」を納品いたします。また、弊社様からは商品説明の訪問依頼等が多数あり、更なる価値と満足のいただけるシステムとなるように努めます。

○ トピックス、適時情報

1. 業界紙(株)家庭薬新聞社 平成23年1月13号 3156号)に「懸場物語プロ」を導入していただきました弊社様の記事が掲載される。多数のお客様よりシステムの問合せが来ております。
2. 配置ビジネスモデルを構築し、製品提供、市場創造、人材育成、経営指導、携帯モバイルの有効活用やプラットフォームビジネスなどの構築に向けての作業(次年度に向けて計画立案)を開始しております。

○ 業績の概況 (第4四半期、平成22年4月～23年3月)

(千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	89,212	164,378	102,944	135,853
経常利益	2,773	6,504	-18,294	4,659

広貫堂メディアーズ 株式会社

○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面)

ホームセンター向け商品及び新商品、既存商品の販促に努めましたが、健康系飲料の販売不振や新規開発商品の遅れ、一部商品の大幅な売上ダウンにより、18,030千円余の減(前期比94.3%)となりました。また、経常利益は、経費の削減、前期実施事業の廃止等により、前期より大幅に改善いたしました。

(事業運営面)

来年度に向けて、新規商品開発として「健康をご家庭に」をコンセプトとした商品を企画中であります。

○ トピックス、適時情報

1. スーパーマーケットトレードショー(2月)に参加し、地域産品販路開拓ブースにて展示・商談会を実施いたしました。
2. 3月11日発生の東日本大震災により、ミネラルウォーター、ペット飲料の特需が発生いたしました。製造メーカーにおいて原材料の調達不足により供給不足が発生いたしました。
3. 平成23年3月31日 代表取締役社長 高岡隆志は辞任しております。尚、4月1日に代表取締役社長に小紙司が就任しております。

○ 業績の概況 (第4四半期、平成22年4月～23年3月)

(千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	345,780	478,991	318,951	300,921
経常利益	12,066	4,112	-68,902	-10,591

平成22年度
(第4四半期)

広貫堂グループ IR情報

グループ各社

広貫堂薬品販売 株式会社

○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面)

第4四半期(4月～3月)販売面では前年同期1,828,424(千円)に対し1,901,045(千円)前期比103.9%、利益面では前年同期4,413(千円)に対し-60,670(千円)で推移しました。3月の震災の影響で仙台、関東地区が稼働できなかった事、22年度新卒者の新懸け、オフィス事業での先行投資により経費負担の増も起因しています。

(事業運営面)

子会社のトキワ広貫堂の業務を一部、広貫堂薬品販売にて請負う方向で取り組みを開始

○ トピックス、適時情報

1. 東北地区震災により仙台営業所担当地区にて約8000軒の被害が想定される。
2. 仙台営業所所員は仙台2名、埼玉2名、富山2名、一宮4名へ配属
3. 23年度新卒者11名を採用、23年4月より開発推進Gへ配属

○ 業績の概況 (第4四半期、平成22年4月～23年3月)

(千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	1,735,700	1,801,589	1,828,424	1,901,045
経常利益	-91,682	14,945	4,413	-60,670

トキワ広貫堂 株式会社

○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面)

弊社の第6期実績は、売上目標462,794(千円)に対し344,908(千円)達成率74.5%(前年対比90.2%)、経常利益△30,177(千円)、当期純利益△30,191(千円)で赤字決算となりました。

(事業運営面)

赤字決算の主な原因として、新規食系売上、卸売事業部の取引業者数、顧客数の減少による売上不振、コアな事業である配置売上のHP売上の低迷などがあり、コスト面では、事業領域を広げすぎた結果、費用と効果検証を行えず、課題が埋没した状態となりました。

○ トピックス、適時情報

1. 平成23年4月1日より、トキワ広貫堂卸売事業部を薬都広貫堂へ移行。
2. 平成23年2月より、トキワ広貫堂の新事業部としまして、オフィス・ドリンク配置サービスをメインとした「オフィス事業部」を設立。

○ 業績の概況 (第4四半期、平成22年4月～23年3月)

(千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	266,216	371,795	382,312	344,908
経常利益	-7,660	-9,601	4,280	-30,177